

中央公民館

市民の教養の向上と生活文化の振興を目的とした施設です。市内の他の公民館と同じ機能を持っており、中規模ホールや研修室、料理講習室などがあります。

施設全体の稼働率は約17%ですが、さまざまな市の事業での利用が全体の30%を超えているのが特徴です。駐車場や公共交通機関を考えると、多くの皆さんが集まりやすい施設です。

正面玄関に入って
左側の2階だよ



料理講習室

勤労青少年ホーム



正面玄関に入って
左側の3階だよ

交流広場（談話室）

勤労青少年の健全な育成と福祉の増進を目的とした施設です。集会室や会議室のほか、卓球などができる軽運動室や料理講習室、防音機能を持つ音楽室、お茶やお花のお稽古もできる研修室（和室）などさまざまな機能を持った部屋があります。

また、フリースペースとしての娯楽談話室があるのも特徴です。

勤労青少年向けの事業を実施する場合以外は、総合市民会館のほかの施設と同様、部屋の利用はどなたでもできます。

勤労青少年ホームも、勤労青少年向けの事業からスタートした生涯学習グループの利用が約70%と突出しています。

施設全体の稼働率は約13%と、総合市民会館の施設の中では一番低くなっています。

※ ここまでに紹介した稼働率は、平成23年度から25年度までの3年間の平均です。

次回からは、先月号で触れた「社会教育施設の再編基本方針」をひも解いてみるよ。



総合市民会館の今後は？
建設時には、4つの施設それぞれの目的に合わせて必要な機能を持ったさまざまな部屋が作られました。このため、総合市民会館全体で見ると、同じ機能の部屋が複数存在し、稼働率が極端に低くなっている部屋もあります。
建設から30年を経過し、施設に不具合が現れ始めました。耐震補強やバリアフリーも含んだ大規模改修を判断する時期が近づいています。
大竹駅からも比較的近く、正面玄関にこいこいバスの停留所がある総合市民会館は、社会教育の拠点施設として、これからも多くの方に利用してもらいたいと考えています。
4つの施設の設置目的に捉われず、必要な機能に必要なだけ整備できるよう効率的な施設に改修したいと思っています。

施設の利用状況を見てみましょう④

総合市民会館編

私たちがスポーツ活動や、文化活動に利用している社会教育施設等。効率的な施設のあり方を一緒に考えるため、施設の稼働率にスポットを当てています。今回は、総合市民会館を紹介します。

総合市民会館は本市の社会教育の拠点施設

総合市民会館は、市民の文化・体育の振興と社会福祉の増進を目的とする施設です。総合市民会館は、本市の社会教育の拠点となる市内最大の施設で、正面玄関が漫画の一コマに描かれたこともあります。利用対象や目的別に複数の機能を持つ施設を1つにまとめた複合施設になっています。

いっしょに



考えよう⑧

公共施設マネジメント

問い合わせ
企画財政課 ☎2125

正面玄関を
入って右側だよ



総合体育館

スポーツの普及や振興と、市民の心身の健全な発達に寄与することを目的とした施設です。競技場、武道場、卓球場を備え、研修室やトレーニングルームもあり、多彩なスポーツを楽しむことができます。

競技場には客席もあり、イベントを開催することも可能です。これまでに国体の卓球会場や、アジア大会のバスケットボール予選会場になったことも、また、プロレスが行われたこともあります。

競技場の平均稼働率は全体利用では約20%にとどまっていますが、部分利用も含めると60%を超えています。武道場が約35%、研修室が約50%と、市内にある施設では一番よく利用され、にぎわっています。

老人福祉センター

高齢者の心身の健康保持と福祉の増進をはかるための施設です。靴を脱いで上がるゆったりとした空間が特徴で、演芸会もできるステージのある広い和室や、機能回復訓練室など高齢者の利用を想定したさまざまな部屋があります。

平成23年度実績では、市の講座からスタートし、その後自主的に活動を行っている生涯学習グループの利用が約70%と突出しています。老人福祉センターには、美術工芸室もあり、高齢者に限らず、どなたでも利用できます。

施設全体の稼働率は約24%です。稼働率の一番高い第2教養娯楽室（和室）は50%を超え、よく利用されている一方で、同じ広さで同じ機能を持った第1教養娯楽室（和室）の稼働率は約8%と部屋によって偏りがあります。



正面玄関に入って
左側の1階だよ

